

「気候情報に関する東京会議」公開シンポジウム

気象庁は、7月6日（月）～8日（水）に、「気候情報に関する東京会議～より良い気候情報による安全・安心・持続可能な社会を目指して～」を開催します。この会議では、気候情報を活用した気候変動による影響への適応の推進に向けて検討を行い、国際的な気候変動対策に対する新たな枠組み作りに資する提言をまとめます。また、最終日（7月8日）には、気候情報の利活用の現状と見通し等について、広く一般の方にも知っていただくため、下記のとおり公開シンポジウムを開催します。

期日：平成21年7月8日（水）

時間：受付・開場 9：00 終演予定 13：00

場所：学術総合センター（東京都千代田区一ツ橋2-1-2）

実施：主催 国土交通省気象庁

後援 世界気象機関、外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、環境省、国際協力機構

プログラム

開会 挨拶 加納 時男（国土交通副大臣）

「気候情報に関する東京会議の提言について」 佐伯 理郎（気象庁 地球環境・海洋部長）

1) 「第3回世界気候会議について」

講師：アビナシュ・ティアギ（世界気象機関 気候・水部長）

本年8月末～9月にスイス・ジュネーブで開催される「第3回世界気候会議」では、気候情報の利活用に向けた世界的な枠組み作りが検討される予定です。世界気象機関 気候・水部長のアビナシュ・ティアギ博士には、この会議の意義と予想される成果について講演していただきます。

2) 「気象キャスターの情報発信と役割」

講師：半井 小絵（気象キャスター）

テレビ等で気象キャスターとして活躍中の半井小絵さんには、気象や気候に関する情報を伝える専門家としての観点から講演いただきます。気象・気候に関する情報を視聴者にわかりやすく伝えるための工夫や心がけていることなどを、エピソードを交えてお話いただく予定です。

3) 「農業分野における気候情報の利活用の事例」（仮題）

講師：ロジャー・ストーン（豪南クイーンズランド大学教授）

豪南クイーンズランド大学の気候学者のロジャー・ストーン教授からは、オーストラリアの農業で季節予報やエルニーニョ予測といった気候情報が実際にどのように活用されているか紹介していただきます。気候情報を農業分野の利用者に伝え、共有するために行っている研究集会などの取り組みについてもお話していただきます。

4) 「今後の気候情報への期待」

講師：木本 昌秀（東京大学気候システム研究センター教授）

地球シミュレータの登場を契機に気候のコンピュータモデルは格段の進歩を遂げつつあります。季節予報や近未来の温暖化予測での新しい可能性、そして「使える」ようになってきた気候予測情報の社会各方面での応用の可能性などについてお話していただきます。

閉会 挨拶 櫻井 邦雄（気象庁長官）

参加方法

- ・メール、FAX、はがきまたは封書によるご応募が必要です。
- ・ご応募の際は、お名前、郵便番号、住所、電話番号、年齢、職業（学年）、メールアドレス、FAX 番号を明記してください。
- ・ご応募いただいた方には、会議事務局より「予約確認通知」をお送りいたします。
※定員 400 名、先着順
- ・「予約確認通知」は、7 月 3 日（金）頃に、メールまたは FAX にて通知いたします。

メール送付先

tss27@or.knt.co.jp

FAX 送付先

03-6658-1022

はがきまたは封書の送付先

〒130-0013 東京都墨田区錦糸 3-2-1 アルカイースト 18F
近畿日本ツーリスト内「気候情報に関する公開シンポジウム係」まで。